



保育の質向上に係る公開保育 の実施について

公開保育実施の背景

保育サポートコーディネーターによる巡回を通じて、現場からは次のような声が寄せられています。

交流機会の希望

他施設の保育者と話す機会や交流、情報交換の場があるとよい。

保育実践や環境に触れる機会

他の施設ではどのような保育を行っているのかを知り、自分たちの保育に生かせる学びの場がほしい。

横のつながり

似たような境遇の保育者同士が課題や悩みを共有できるよう、施設や法人の枠を越えた横のつながりができるとよい。

公開保育の目的

実践・見学

他施設の保育実践を直接見学し、共有することで、保育を学び合う機会とする。

ディスカッション

事後ディスカッションを通じて、見学した保育について参加者同士で意見交換し、気づきや学びを深める。

相互学習

実施施設と見学者の双方が学び合い施設間の連携を強化して地域全体の保育の質向上につなげる。

➤ この公開保育は、実施施設の保育者及び保育見学者が相互に学びを得る場を創出することで、地域全体で保育の質向上を図るための基盤となることを目指します。

参加対象

認可保育所

認定こども園

幼稚園

地域型保育
事業

認可外保育

公開保育の開催形式

公立施設での開催

- 市立神楽保育所
- 全3回開催
- 0～5歳児クラス

私立施設での開催

- 希望のあった施設（2施設程度（各1回））
- 各1回開催
- 現在検討中

公開保育の基本方針



ディスカッション

事後の振り返りにより参加者同士の対話
と交流を促進し、横のつながりを構築し
ます



参加型

保育実践を見学しながら、気づきや良さを記
録し、対話につなげる参加型の研修とします



発表

ディスカッション結果をグループごとに発
表することで実践的な学びを深めます



**保育の質向上
公開保育**

アドバイザーの役割

専門家としての役割

本公開保育におけるアドバイザーは、実践に対する継続的な助言を行うとともに、事後のディスカッションでは保育者同士の対話を促進し、実践に基づく学びを深める役割を担う。また、議論を深めるファシリテーターとして機能し、その学びをその後の保育実践へとつなげる橋渡し役として位置付ける。

1 公開保育の見学

施設の特徴や工夫点、保育者と子どもの関わり方、環境構成などを専門的な視点で把握

2 ディスカッションのサポート

参加者が得た学びをさらに深めるための質問や新たな視点を提供。保育実践の背景にある意図や工夫について考えを深められるよう支援

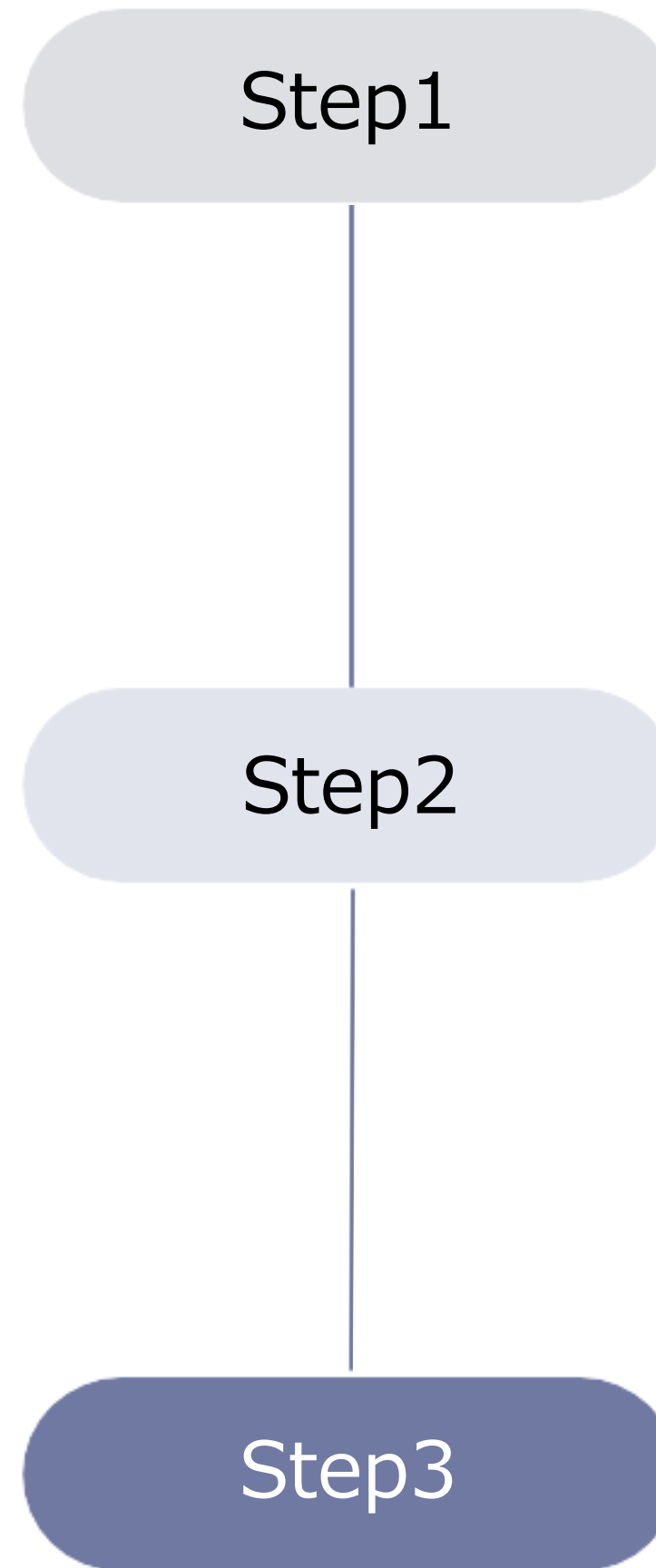
3 講評・フィードバック

ディスカッション・発表の内容を踏まえ、保育の質をさらに高めるための改善点や効果的な方法についてアドバイス等を提供

公開保育 保育トーク&見学会 の流れ

参加型の 学び合い

保育実践の見学・参加者同士の意見交換を重視した
ディスカッションを中心に進めます。



公開保育の実施

- ・実施施設がテーマに沿った日常の保育を公開
- ・子どもの姿や保育者の関わり、環境構成などを見学
- ・保育実践を見学しながら、気づきや良さを記録

ディスカッション・発表

- ・実践の振り返り
- ・新たな視点や保育の工夫を共有
- ・施設の枠を越えた対話の促進

アドバイザー総括

- ・グループワークの意見整理
- ・現場で生きる実践スキル等の示唆
- ・学びの整理

市立保育所での実施

<アドバイザー>

棚橋 裕子 氏

(旭川市立大学短期大学部 准教授)

24年間の幼稚園勤務経験を持つ専門家。
主な研究テーマは、主任保育者の役割や意識、子ども理解、保育の計画と実践で、不適切保育や幼児期教育の重要性についても発信。

道内各施設での公開保育に携わり、アドバイザーとしての実践経験が豊富。

<テーマ>

保育トーク&見学会‘やってみたい’を支え合う

<日程・場所>

- 1 令和8年7月29日(水) 9:45～12:00 旭川市立神楽保育所(神楽4条8丁目)
- 2 令和8年9月(予定)
- 3 令和8年12月(予定)

<公開保育の内容>

日々の保育の取組過程やテーマに沿った保育実践の見学を通して、子どもの姿や実践者の思い、参加者の気づきをもとに語り合い、保育の学びを深め合う

私立施設での実施

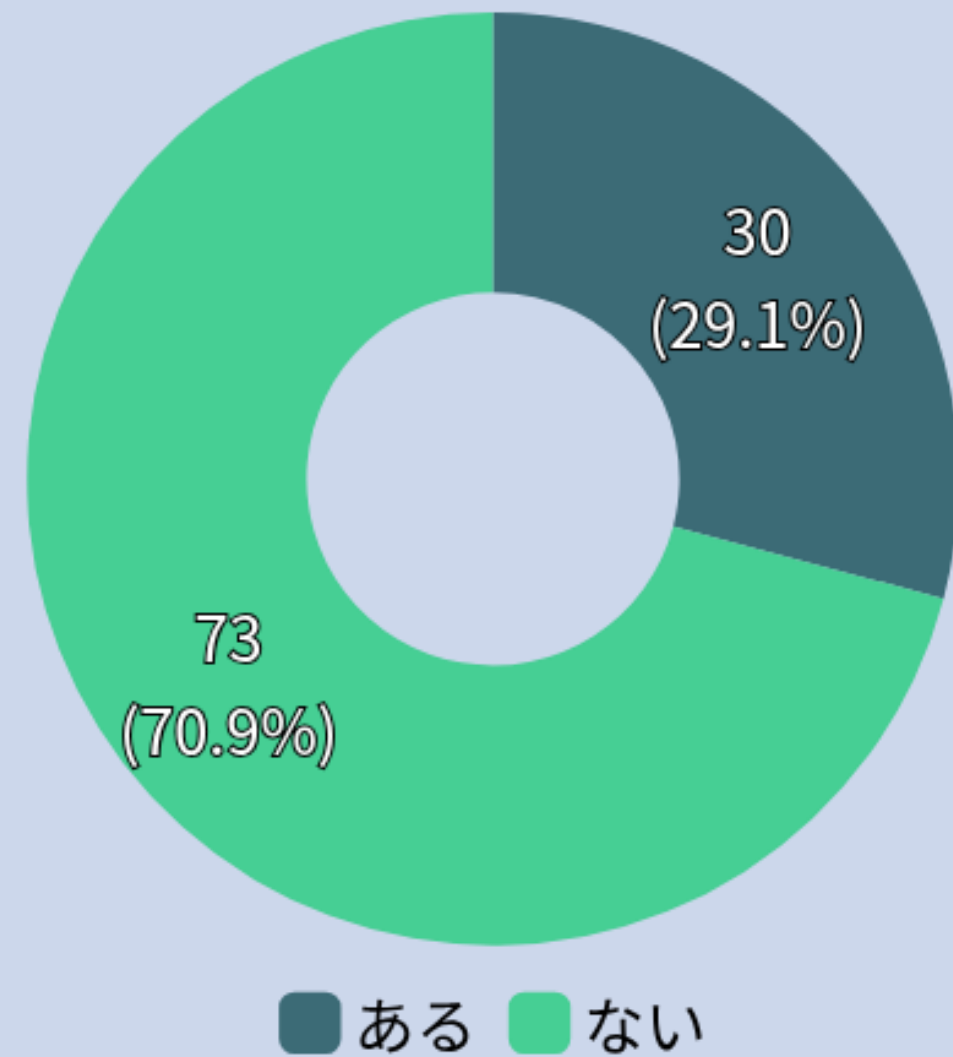
実施希望のあった市内保育・幼児教育にて実施予定(令和8年10月～令和9年3月)

アンケート調査

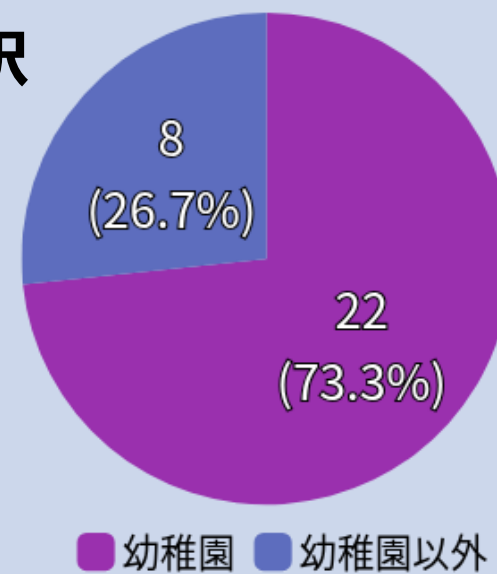
対象：市内全保育・幼児教育施設

回答：103件

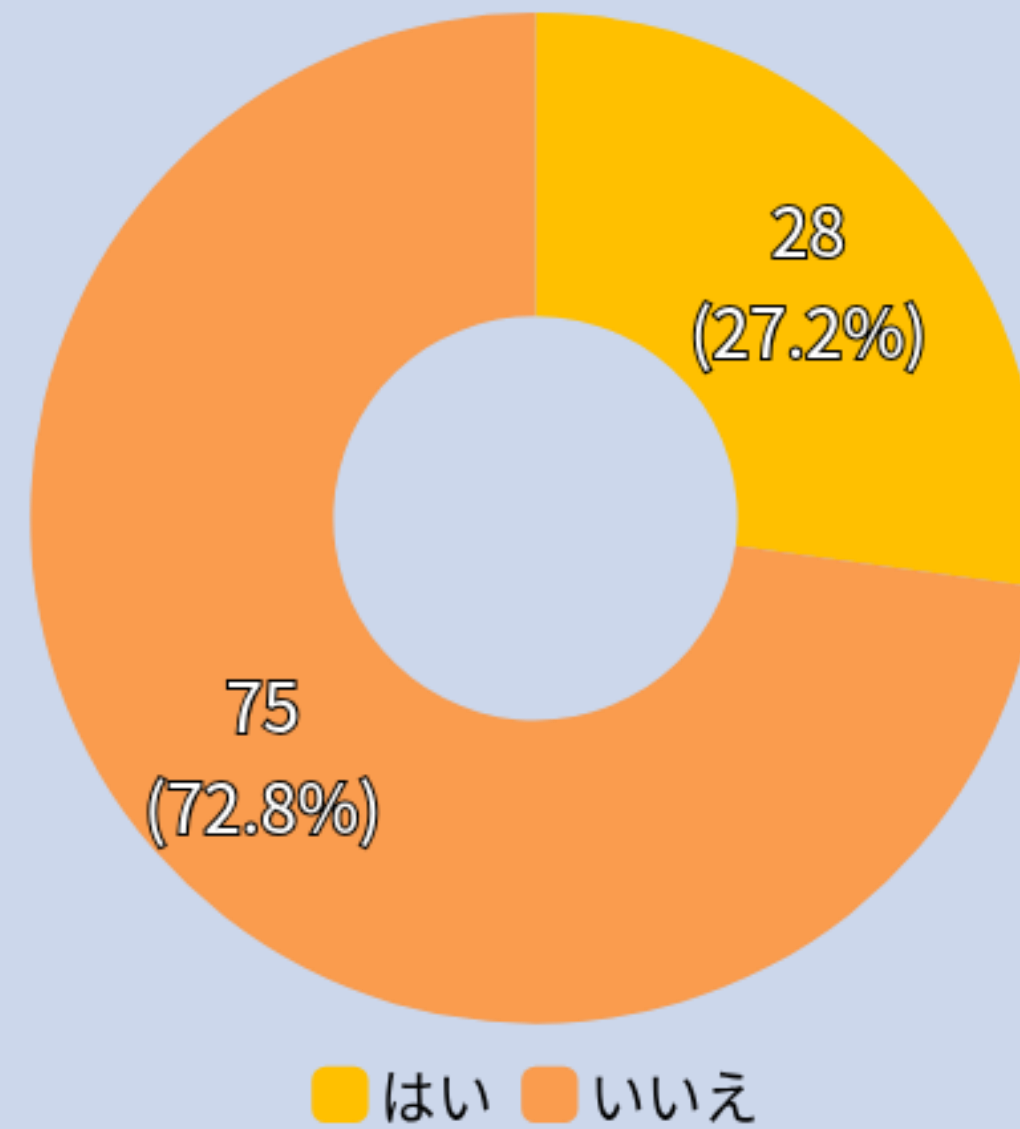
Q.自園で公開保育を開催したことはあるか



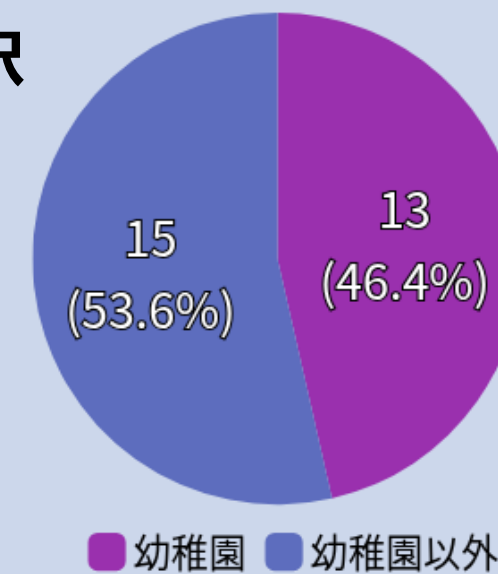
※「ある（30件）」の内訳



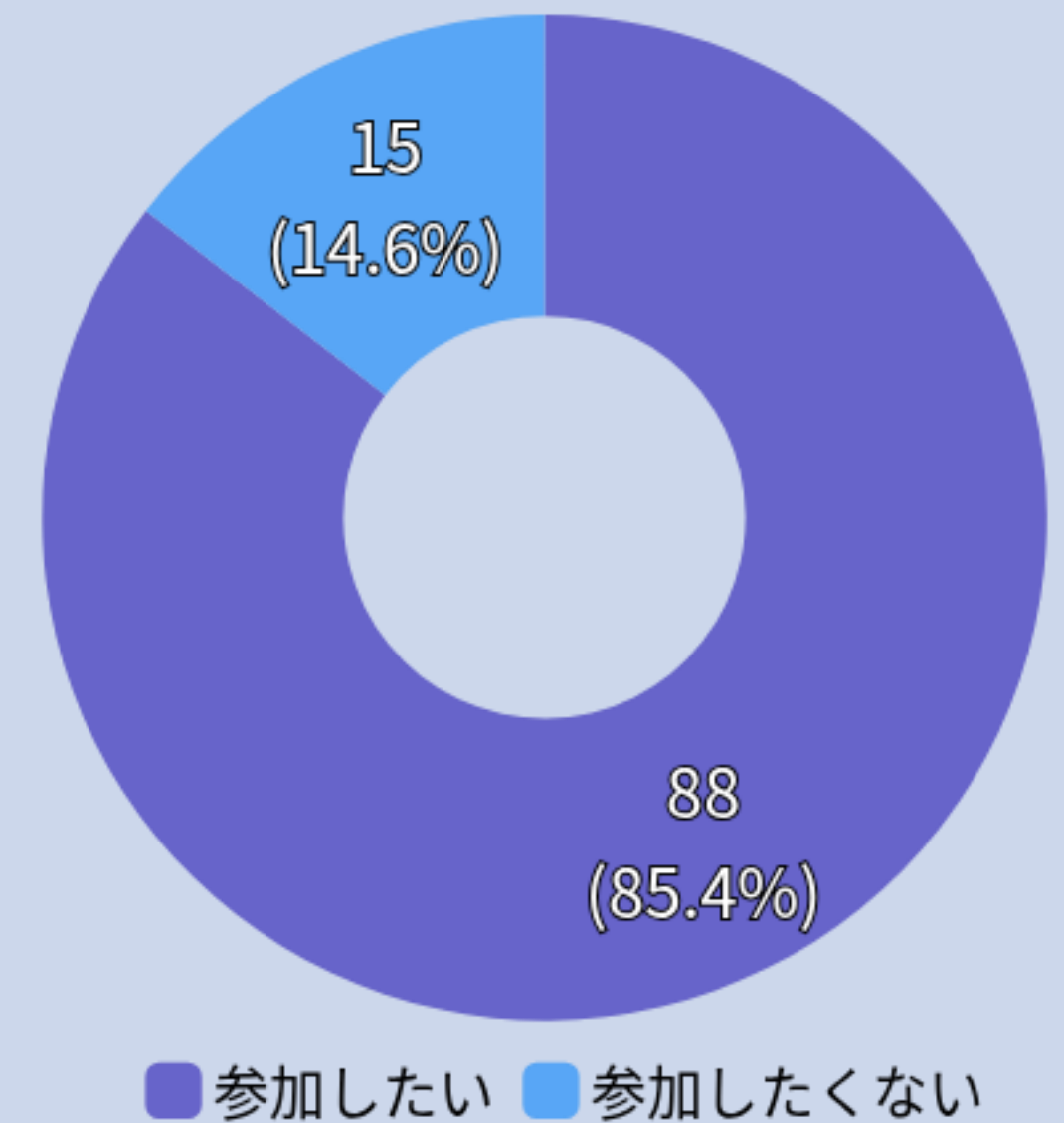
Q.今後、自園で公開保育をしたいと思うか

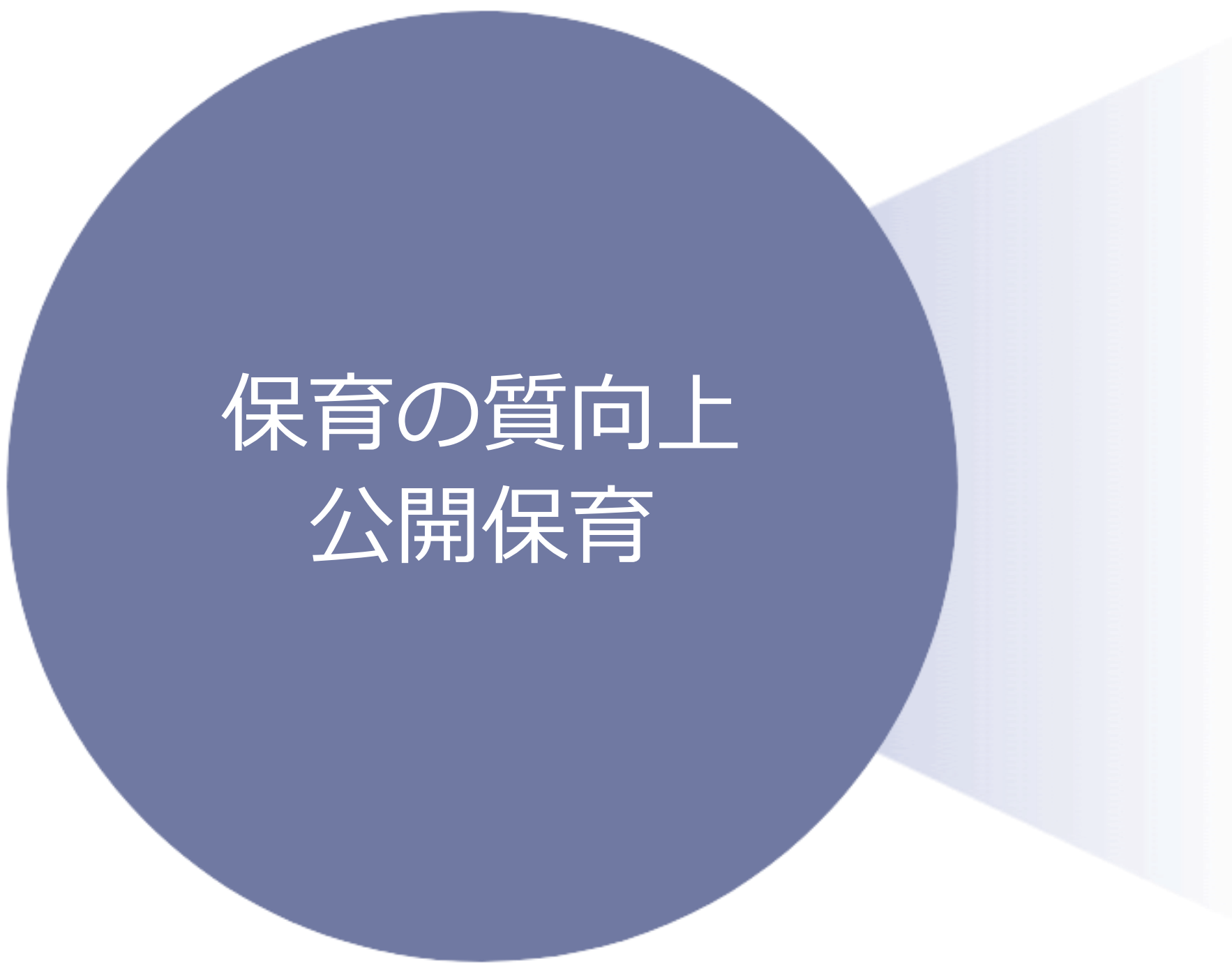


※「はい（28件）」の内訳



Q.他園の公開保育に参加したいと思うか





保育の質向上 公開保育

1 実践・見学による気づき

他施設の保育実践を実際に見学することで、子どもの姿を捉える視点や保育者の関わり、環境構成の工夫などについて、新たな気づきや学びにつながります。

2 相互学習の促進

実施施設と見学者が互いの保育実践について語り合い、意見や気づきを共有することで、多様な視点から保育を捉える機会となります。

3 実践力の向上

得られた学びを日々の保育に生かすことで、保育者一人ひとりの実践の深まりや、施設全体の保育の充実につながります。